

令和8年度 全国学力・学習状況調査【小学校・中学校】調査結果の概要

令和8年度の調査は、小学校は6年生で国語、算数の2教科、中学校は3年生で国語、数学、英語（CBT方式）の3教科で実施されました。

1 教科に関する調査結果

【小学校】

調査したいずれの教科でも全国の平均正答数を下回りました。算数の結果には改善傾向が見られます。問題に対する無解答率は各教科とも全国平均よりも低い傾向にあります。問題に対する取組は良好です。

【中学校】

調査したいずれの教科でも全国の平均正答数を下回りました。問題に対する無解答率はいずれの教科も全国平均よりも上回る傾向にあります。

2 質問紙調査に見られる課題と対応

【小学校】

① 教科を中心とした質問について

国語に関する意識、国語の学習活動、英語に関する意識についての結果は、全国平均を上回るまたは、同等の結果でおおむね良好でした。算数、英語の学習活動についての結果は、全国平均に比べて数ポイント下回る結果となっています。

② 学習習慣、自己有用感等に関する質問について

学習習慣に関する意識は全国平均に比べて高くなっています。家庭学習（1時間以上取り組んでいる割合）についても、全国平均を上回っています。また、主体的・対話的で深い学び、自己有用感・心理的安全性、向社会性、学びの自己調整、総合・学級活動・道徳など多くの項目について全国と同等の結果となっておりおおむね良好な状況です。一方で、生活習慣、読書、ICTの利用についての意識は全国平均にやや低い結果となっています。スマートフォンや携帯電話を用いた普段のSNSや動画視聴の時間について2時間以上と回答している児童が全国平均を上回っています。

【中学校】

① 教科を中心とした質問について

国語や数学は、教科の意識と教科の学習活動について全国平均と同等または上回っていて概ね良好でした。英語は、全国平均と比べて低い結果でした。

② 学習習慣、自己有用感等に関する質問について

多くの項目で全国平均を上回っており、良好な状況です。特に主体的・対話的で深い学びや学びの自己調整、向社会性、ICTの活用、総合・学級会・道徳の項目で高い結果でした。家庭学習（1時間以上取り組んでいる割合）は、昨年度より改善され全国平均との差が縮まりました。読書については全国平均に比べて低い結果になりました。スマートフォンや携帯電話を用いた普段のSNSや動画視聴の時間について2時間以上と回答している生徒が全国平均を上回っています。

3 指導改善に向けて

(1) 主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善の質の向上

- ① 基礎・基本の定着と個に応じた指導の工夫。
- ② 考えの再構築に結びつける話し合い活動の充実。
- ③ 自分の考えを表現する（話す、書く、まとめる）場と機会の設定。

(2) 学習習慣、生活習慣の改善

- ① 学習内容と関係づけるなど家庭学習の課題を与え、適切な時間家庭学習に取り組む習慣化を図る。
- ② SNSや動画視聴の時間について、適切な使用ができるように意識を高める働きかけ。